

島根県幼児教育振興について

地域教育推進室企画幹 高木 敏光

幼児教育の重要性といわれた場合に、みなさんほどのようなことを思い浮かべられますでしょうか。

- 幼児期に読み書きそろばんと英語などは身に付けさせ、小学校以降の学力を伸ばすために重要である。
- 小学校就学までに基本的な生活習慣と学習態度をどの子どもにも身に付けさせ学級崩壊を減少させるために重要である。
- 家庭教育力が低下しているため、保育所や幼稚園などがしっかりしつけをするために重要である。

以上のような課題意識から幼児教育を重視しなければならないという意見をよく聞きますが、この意見の根本は「幼児期の遊び」は小学校以降に必要なものであるという考えがあるかと思えます。

右の2つのグラフ（「園での経験と幼児の成長に関する調査」平成28年8月、ベネッセ教育総合研究所）は、幼稚園の子どもたちの遊びの姿が、どのような資質・能力の育成に関連するかを分析したものです。

これをみると、友達と一緒に考えながら、熱中して遊ぶなどの遊び込む経験の多い子どもは、協調性やがんばる力といった、学びに向かう力がより多く身に付いていることがわかります。また、協同的な経験が多い子どもは、文字や数に関わる関心などを含めた資質・能力が身に付いていることがわかります。

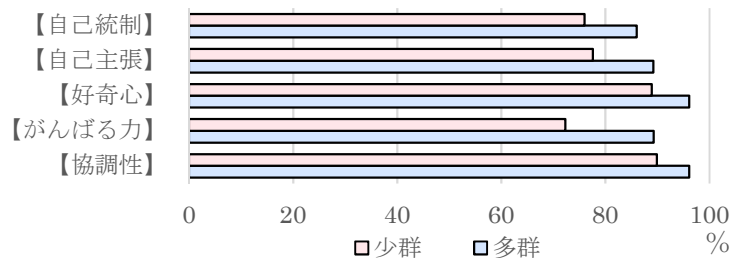
幼児期の遊びは、生活そのもので、小学校以降の知識・理解や思考力・判断力・表現力ばかりではなく、学びに向かう力も総合的に育成される「学びの基礎」であり、より質の高い教育をすれば、身に付く資質・能力は一層幅広く、深いものとなっていくことがわかります。

また、ほかの研究（「幼児期から小学4年生の家庭教育調査・縦断調査」平成28年9月、ベネッセ教育総合研究所）では、3歳までに基本的な生活習慣が身に付いている子どもは、その後、学びに向かう力や言葉や文字への関心などがより身に付いており、小学校以降の学習態度などに影響を与えているという結果もあります。

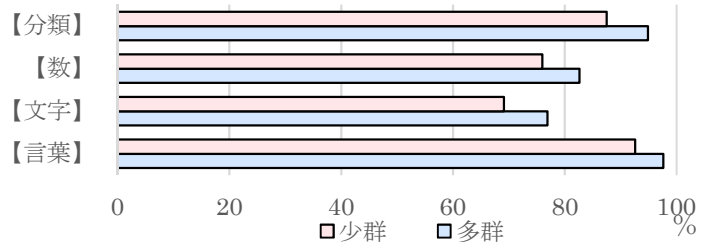
幼児期の遊びは、小学校以降の学習ばかりではなく人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園や保育所の教職員などは、子ども一人一人の実態に応じた教育・保育を行っています。しかし、始めに記載したような幼児教育の考え方があれば、子どもの育ちと学びの発達の促進は望めないこととなります。

そうしたことを踏まえ、島根県の幼児期の教育において「いきいきと周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら遊び育つ子ども」の育成をめざすために、県民をはじめ保護者、地域、幼児教育施設、小学校、市町村、県の役割分担を明確にして、それぞれが連携をとりながら取り組んでいけるよう、「島根県幼児教育振興プログラム」を策定しました。是非お読みいただき、幼児教育へのご理解とご協力をお願いします。

遊び込む経験の「学びに向かう力」への影響



協同的な経験の「文字・数・思考」への影響



全国学力・学習状況調査の活用方法について

1 全国学力・学習状況調査の活用

令和2年6月9日付け事務連絡においてお知らせしましたとおり、令和2年度全国学力・学習状況調査（以下、「全国調査」）の問題冊子は、7月13日（月）～15日（水）に文部科学省より各学校へ配送されます。一部島しょ部については、7月17日（金）までに配送されます。

この全国調査の問題は、全ての学校、児童生徒に対して、学習指導要領の理念・目標等に基づき、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力等を具体的に示すメッセージを盛り込んで作成されているものです。

各学校におかれましては、令和2年4月10日付け島教指第59号で送付しました「令和2年度各教科等の指導の重点」にある島根県学力調査の結果からみられる課題と今後の指導のポイント等を参考にしながら日々指導をされていることと思います。（EIOSにも掲載しています。）

全国調査を有効に活用し、児童生徒一人一人にしっかりと力を付けていただきますようお願いいたします。

活用事例として、以下の取組も考えられます。

【県学力調査の課題が改善できたかを確認するために...】

- 授業中に時間を設定し、調査問題として取り組む
- 授業で学習する内容に対応した問題を取りあげて取り組む（小6・中3以外での活用）
- 長期休業中等の家庭学習の課題として活用する

【学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を確認し授業改善にいかすために...】

- 夏季休業中等の校内研修を活用し、調査問題を分析して求められる力を分析する
- 児童生徒の解答状況から、各学校や児童生徒一人一人の強み・弱みを分析する

2 県学力調査の振り返り

昨年度の島根県学力調査の結果からみられた課題等について振り返ってみましょう。

(1) 小学校国語の分析

全体的な結果の概要

- 「書くこと」において、読み手を意識した効果的な表現の工夫をとらえることができている。
- 漢字の読みについては、すべての問題において高正答率となっており、概ね定着している。
- ◆「読むこと」において、他の領域と比較して著しく正答率が低い。
- ◆複数の文章を比較して読んだり、図やグラフなどを対応させて読んだりすることに引き続き課題がある。
- ◆漢字の書きについては、同音異義の漢字について、文の中で正しい意味をとらえて使うことに課題がある。

全国学力・学習状況調査等における課題

- ・話合いの話題や方向を踏まえて自分の考えをもつ。 [中2・2二]
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつ。 [中1・4二②] [中2・4三]
- ・資料の中から情報を取り出し、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書く。 [中1・3二] [中2・3二]

複数の文章や多様な資料から情報を読み取ることに課題！

6年生「プラスチックごみ」、「日本の季節」の問題です。

◆小6 複数の文章を読み、内容の違いをとらえて簡潔にまとめることに課題がある

[小6・4三 正答率16.1% 無解答率8.3%]

考えを形成し、深めることができる指導過程を工夫する！

小学校国語における授業改善

調査の結果を受けて、今後活かしていきたいこと

- 全ての領域において「考えの形成」を大切にした言語活動を設定しましょう。
 - ・「書くこと」…調べたことや読み取ったことを整理し、事実と感想、意見とを区別して書く
 - ・「読むこと」…文章構成、資料との照応関係、作品中の人物関係や心情の変化など図示化・キーワード化して整理、自分の言葉で説明したり、考えを交流したりする
- 図鑑や事典など、様々な種類の資料を読む活動を取り入れましょう。
- 漢字の定着について、意味を理解し、文章の中で正しく書けるようにしましょう。

(2) 中学校国語の分析

全体的な結果の概要

- 第1学年は「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」について、第2学年は、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質」について概ね定着がみられる。
- ◆話合いの話題や方向(発言の役割)を捉えることについて第1学年で課題がある。
- ◆資料の中から情報を取り出し、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書くことについては、第1学年は改善傾向だが、第2学年は依然として課題である。

全国学力・学習状況調査等における課題

- ・話合いの話題や方向を踏まえて自分の考えをもつ。 [中2・2二]
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつ。 [中1・4二②] [中2・4三]
- ・資料の中から情報を取り出し、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書く。 [中1・3二] [中2・3二]
- ・漢字の書きと品詞を理解する。 [中1、中2・1一] [中2・1四]

取り出した情報を根拠に自分が伝えたいことを書くことに課題！
島根県の森林資源の問題です。

(2) 中学校国語における授業改善

調査の結果を受けて、今後活かしていきたいこと

- 「話すこと」に併せ、「聞くこと」にも重点を置いて話合い活動を充実させましょう
- 読み手を意識し、根拠を明確にして自分の考えをわかりやすく伝える文章を書く活動を取り入れましょう
- 根拠をもとに自分の解釈を説明したり、互いの解釈を交流したりして、「読むこと」における「考えの形成」を図りましょう
- 日常の読書活動につながる学習展開を工夫しましょう

◆伝えたい事柄について、資料を参考にして書くことについては、課題がみられる。

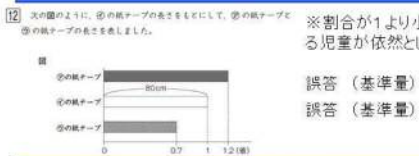
中2・3二 正答率19.8% 無解答率13.2%

根拠をもとに自分の考えを伝える学習活動を設定する！

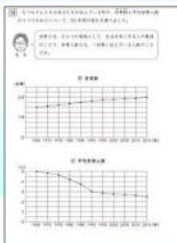
問題の解き方や理由を説明することに課題！
世帯数と平均世帯人数の問題です。

課題のある問題

◆ 小5、小6の「小数の乗法について理解している」指導をしていく必要がある。



◆ 小6の「与えられた資料を読み取り、人口の変化について必要な計算や言葉を使って、説明することができる」問題について、課題が見られる。



【小6・14(2) 正答率13.2% 無解答率19.8%】



数量の関係を図から読み取ったり、自分の考えを説明したりする活動を充実させる！

(3) 小学校算数の分析

全体的な結果の概要

- これまで課題が見られた「数と計算」領域の問題について改善が見られる。
- ◆ 領域別に見ると、「図形」に関わる問題について課題がある。
- ◆ 小数倍の意味理解について、依然として課題が見られる。
- ◆ 既習事項を活用したり、資料の特徴や傾向を関連付けたりしながら方法や理由を記述する問題の正答率が低い。

全国学力・学習状況調査等における課題

- ・ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。示された除法の式の意味を理解する。
- ・ 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。
- ・ 資料の特徴や傾向を関連付けて、その理由を記述する。
- ・ これまでの県学力調査における、小数の乗法及び除法の意味を理解する。

小学校算数における授業改善

調査の結果を受けて、今後活かしていきたいこと

- 児童のいろいろな考え方を取り上げ、解釈する活動を取り入れていきましょう。
- 図形をかいたり、切ったり、並べたり、作ったり展開したりするなどの数学的活動を取り入れていきましょう。
- 数量の関係（基準量、比較量、割合）を多様な図で適切に表す活動や、かかれた図から関係を読み取る活動を取り入れていきましょう。
- 児童が自分の考えを説明したり、ノートに記述したりする活動を適宜取り入れるようにしましょう。

(4) 中学校数学の分析

全体的な結果の概要

- 数や式の基本的な四則計算は定着している。
- 樹形図を用いて場合の数を求めることができる。
- ◆ 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすることに課題がある。
- ◆ 展開図や見取図を基に図形を考察したり、図形の各要素の関係を捉えたりすることに課題がある。
- ◆ グラフから関数の式を求めることに課題がある。
- ◆ 資料の活用について、用語の意味理解やヒストグラムからデータの分布の傾向を読み取ることに課題がある。

全国学力・学習状況調査等における課題


- ・ 「関数」の領域において全国との差が大きい。
- ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。
- ・ 与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉える。
- ・ これまでの県学力調査における、図形についての計量の技能。

数量の関係や法則を式で表したり、グラフから関数の式を求めたりすることに課題！
数の規則性の問題です。

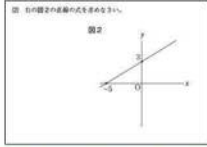
課題のある問題

◆グラフから関数の式を求めることに課題がある。

[中1・11(1) 正答率 45.9% 無解答率13.5%]



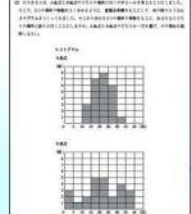
[中2・5(2) 正答率 24.0% 無解答率20.3%]



◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を説明することに課題がある。

[中2・9(2) 正答率 31.9% 無解答率13.2%]

調査年度	調査項目	調査結果
2011年度	調査項目	調査結果
2012年度	調査項目	調査結果
2013年度	調査項目	調査結果
2014年度	調査項目	調査結果
2015年度	調査項目	調査結果
2016年度	調査項目	調査結果
2017年度	調査項目	調査結果
2018年度	調査項目	調査結果
2019年度	調査項目	調査結果
2020年度	調査項目	調査結果



中学校数学における授業改善

調査の結果を受けて、今後活かしていただきたいこと

- 事象の中にある数量やその関係を文字を用いた式を使って一般的に表現したり、新たな関係を見いだしたりする学習場面を取り入れましょう。
- 立体の模型を観察や操作、実験などの活動を重視しましょう。
- 日常生活における問題から関数の関係を見だし、問題解決の方法を式やグラフを用いて説明する課題を取り入れましょう。
- 代表値や相対度数を使うことのよさが実感できるデータを扱う活動を取り入れましょう。

数量やその関係を文字を使った式で表したり、問題解決の方法を式やグラフを用いて説明する活動を充実させる！

3 終わりに

今後、文部科学省から「活用資料」や「問題活用の参考資料」も配付される予定となっております。県教育委員会としましても、参考資料等を活用した学習内容についてお示ししていくこととしております。全国調査を有効に活用し、児童生徒一人一人にしっかりと力を付けていただきますようお願いいたします。

島根の子どもたちが、島根に育ち学んだ自信を胸に、自らの人生と未来を切り拓くことができるよう、「生きる力」を付ける必要があります。そのために、県内全ての学校において、今学んでいることと地域や社会とのつながりが実感できる授業を展開し、一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と子どもたちが感じられる授業に改善していきましょう。